



第30号

平成23年 5 月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

ブッダガヤ紀行

副院長 山口 龍彦



◆ あこがれの地ブッダガヤ

現代の日本人の9割ほどの方は、その人生の最後において仏教のお世話になっている。昔は人生の最後といわず、生活の中に仏の教えが息づいていたようであるが、今では死んでしまってからやっとお世話になる人も多いようで、残念な気もする。春の訪れとともにお遍路さんの姿も多く見かける今日この頃であるが、土佐路に似合うお遍路さんのその姿は、日本人の心に仏教が深く染み込んでいることを思い出させてくれて嬉しい。

もう何十年も昔になるが、高校一年生の春に、友人を誘って奈良、飛鳥、斑鳩の旅をしたことがある。東大寺から春日大社を経て、山辺の道を歩いて南に下り、大和三山を眺め、飛鳥寺など明日香村の散策から斑鳩の法隆寺に至り、さらに薬師寺や唐招提寺などの寺々を数日かけて訪ね歩いたのである。朝から晩まで歩き疲れた旅でもあったが、井上靖の小説を愛読していたせい、とても懐かしい感じがしたことを覚えている。

インドは、私の中では西遊記で繋がっている。三蔵法師が尊いお経を求め、留学したのが天竺と言われるインドであった。現在、仏教はインドにはほとんど残っていないと言われているが、その発祥の地を訪ねてみたい気持ちは昔からあった。特に、最近ブッダガヤという仏教発祥の地を巡礼してきた方の話を聞かされると、この際、自分も行ってみようかという気になってしまった。

◆ デリー

2010年12月初旬、インドにはデリー空港からの入国となった。私たちの一行は、空港に迎えにきて下さったイノウエさんの用意した車に乗って、デリー市内に向かう。道路は片側3-4車線ある立派なもので、舗装はされているのであるが、周辺に土の部分が多く、土が道路に堆積しやすい。乾期にはこの土が舞い上がり、まるでスモッグのように見える。所々の道端にはなぜか牛が寝そべっていたり、草を食んでいた

りするのが見える。土ぼこりと牛。インドに来たという実感がわいてくる瞬間である。

インドの車で驚く事はクラクションである。走っている間、運転手はクラクションを鳴らせ続けたのであるが、それは普通の礼儀であるらしい。インドで車を走らせるには自分の位置と行き先をクラクションで周囲に知らせなくてはならないのだ。ハイウェイを逆行してくる車にも出会ったが、クラクションのおかげで事故には繋がらない。このように、交通ルールはあるものの、自分の都合が優先することが認められている社会でもある。自分の都合は伝えることである程度尊重されるのだろう。各々が自分の行き先を主張しつつ、ぶつからないのはほんとうに不思議だ。



◆ ガヤ行き寝台列車



インド料理のレストランで遅い昼食をとった後、ニューデリー駅に向かった。ここから、寝台列車に乗り、約 10 時間かけて目的地ブッダガヤに向かうのだ。渋滞とクラクションの喧噪の中を車がようやくデリー駅に到着すると、ポーターが来て旅行鞆を頭の上に載せて軽々と運んでくれた。構内は人、人、人で満ちており、歩道橋を渡って目的のホームに入っても足の踏み場もない。中にはホームの中央で陣取り横になって寝ている者もいる始末。そんな人たちを跨ぎながら、ポーターの後についてホームの目的の場所にたどり着いた。

ポーターは列車が入ってくるまで待機して、予約の席まで荷物を運び入れてくれた。

このような事ができるのも、ヒンディー語が堪能で、デリーとブッダガヤをこの列車で往復することが日常となっているイノウエさんがいてくれるからである。イノウエさんのご主人はブッダガヤでホテルを経営しているインド人である。また、3 人の子供たちはデリー市内に住んでおり、デリー市内の学校に通わせているという。彼女なしに言葉の通じない初めてのインドで、寝台列車に乗るのは不可能なのである。寝台車に乗るには何日も前から切符を買わなくてはならないのだが、日本の旅行会社では確保できないそう。

とまれ、一等寝台車に乗り込んだ一行は、結構楽しい時間を持つ事ができた。心配していた列車の中のトイレも思ったよりずっと清潔そうだったし、走りはじめてすぐにお茶とお菓子のサービスがあった。それが終わってしばらくすると今度は夕食が運ばれてきた。インド式のカーリー料理であった。さすがにデリーのレストランの味には及ばないが、ごちそうである。窓の外は、すぐ暗くなって景色は見えない。ひたすら闇の中を列車は突き進むのみである。したがって、時間をつぶすには話をするしかない。同室のインド人はビジネスマン。もちろん多弁で、食事の間中インド英語でいろいろと話をする。時差の関係と旅の疲れですぐ眠たくなり、上段席で毛布にくるまりぐっすり寝てしまった。

インドは広大な国である。地方によって気候はさまざまである。私が今回の旅行の目的地としたブッダガヤは、北インドのガンジス川中流域に位置している。この地方の 12 月は乾期であった。雨は絶対といっていいほど降らない。気温はちょうど高知の 10 月頃、秋晴れの続く時期に似ている。昼間は半袖でも過ごすことができるが、夜間は冷え込み、安眠のためには毛布も必要となる。ただし、乾ききった大地からは土ぼこりが舞い、太陽もかすんでしまう。

翌朝 3 時半に起床。車掌が起こしに来た。停車の時刻は大雑把で、ガヤ駅にはだいたい 4 時頃つくのだという。しかし、10 分ぐらい早く着く事もあるし、4 時半になることもあるらしい。駅にはアナウンスもなく到着し、ベルなどの合図もなく走り出す。車掌も必ず起こしてくれるわけではないようで、イノウエさんも降り損ねたことがあるらしい。ガヤ駅に着くとホテルのポーターが乗り込んできて荷物を持ってくれた。

イノウエさんのホテルの従業員たちであるから安心して任せられる。ガヤ駅は乗り換え駅でもあり、未明にも関わらず、大勢の人で溢れ返っていた。ガヤ駅から車で 20 分ほど走り、ブッダガヤの大菩提寺の入り口のすぐ前にあるマハマヤホテルに到着したのである。

(つづく)

緩和ケア病棟便り

3月5日(土) ☆ ボランティアさんと和(NAGOMI)アートを行いました ☆



NPO 法人高知緩和ケア協会が行っているホスピスボランティア養成講座を終了されたボランティアの山内さんに来院していただき、緩和ケア病棟において、患者様・ご家族様の参加のもと、和(NAGOMI)アートを行いました。

15cm 四方の画用紙にパステルを削り、その粉をコットンで画用紙にこすりながら描いていきます。はじめは参加者の皆さんの多くが、山内さんの見本の絵を見ながら「こんなの無理や!」「私は絵心がないから絶対に無理よ」などと言われていました。しかし、山内さんの説明を受けながら少しずつ絵を描いていくと…みるみるうちに澄み渡る青空と新緑美しい草原が現れました。参加者の皆さんは初めて描かれた絵ですが、30 分もしない間に本当に芸術的な絵ができあがりました。

患者さんからは「私は天才ね」などという言葉も聞かれ、だんだんと出来ないことが増えていく中、自分で何かを造りあげるといった達成感や喜びを味わうことができたようです。ご家族も「絵を描くなんて何年ぶりかしら、本当に楽しかった」と大変喜ばれ、病棟での毎日の看病の中、心の憩いとなったようです。

ボランティアの山内さん、本当にありがとうございました。

これからもそんな時間をみなさんで共有できるようお手伝いさせていただきます。

2月21日(月) 院内コンサート

4 階病棟談話室にて H22 年ホスピスボランティア講座を受講された、嶋崎靖子さん、渡辺浩さんによる歌とキーボードのボランティアコンサートが開かれました。【どこかで春が、春の小川、春が来た、さくらさくらなど】懐かしい童謡等を聴かせ頂きました。参加された方は手拍手をしたり口ずさんだり涙されたりと、スタッフともども、心を癒される時間となりました。



3分間スピーチ

3階看護師 縄田三津子

男性のみなさんお料理は出来ますか？

私は結婚して約 18 年になりますが、私の主人は殆ど「出来ない」部類の人でした。しかし、共働きの私たち、これじゃあいかん!!と少しずつやってもらう事を増やし、不器用な主人でも大体の事は任せられるようになりました。それどころか、予想以上に料理に目覚めてしまい、数年前から四国ガス主催の小学生とその親を対象とした料理コンテストに出場し始めました。そして去年 12 月、3 回目のチャレンジにて、県代表を勝ち取り四国大会まで出場!! 残念ながら全国大会の東京は逃しましたが、立派なものです。おかげで更に料理への興味に拍車がかかり、明けても暮れてもコンテストメニュー考案で頭が一杯の主人…。

口から出るのは料理の話ばかり、次こそ全国への思いに盛り上がる主人を見ながら、いささかうんざり…。えーかげんにして…その辺で充分です…そこそこで良かったのにと心の中でぶやきます。今では点けてしまった火をすこしづつ鎮火させようと、冷めた目で見ている私。

子供も小 6 になり、今年最後のチャレンジ。これで最後と思うと心底ホッとしています…さてその後は一体どうなるのかしら…。これは勝手というものでしょうか。

院内行事

合同慰霊祭



高知厚生病院 平成22年度
合同慰霊祭を3月5日に
行いました。

通所リハビリテーションこうせい お花見



3月終わってから4月の
初めに、毎年恒例の国
分寺にお花見に行きま
した。
今年も見事なしだれ桜
を見てきました。

掲示板

高知厚生病院健診センターのご案内

高知厚生病院健診センター 事務室

平成23年4月より政府管掌健康保険（協会けんぽ）指定健診実施医療機関として、高知厚生病院健診センターを新たに開設致しました。

現在、日本人の死亡原因の60%以上は生活習慣病といわれる「がん・脳卒中・心筋梗塞」で占められています。生活習慣病から身を守るにはライフスタイルの見直しと早期発見が大切です。早期発見と予防のために生活習慣病予防健診の受診をおすすめ致します。

健診センター概要等は、下記をご覧ください。健康な今だからこそ“全身チェック”高知厚生病院健診センターに“皆さまの健康をサポート”させて下さい。



（健診センター概要）

名 称：高知厚生病院健診センター

所 在 地：高知市葛島1丁目9-50

電 話 番 号：088（882）6205 高知厚生病院（代表）

健診実施日：毎週（月）（水）8:30～12:00 受付時間 8:30～8:40 ※祝祭日は休み

ご予約方法：予約制になっております。電話にてご予約下さい。

そ の 他：駐車場あり 北側をご利用下さい。（北入口よりエレベーターで2Fへお越し下さい。）



当院は
平成15年9月22日より
日本医療機能評価機構
認定病院となっております。



◆特定非営利法人
日本医療機能評価
機構より認定研修
施設として認定
されました



◆厚生労働省より
医師の卒後臨床
研修施設の
認定を受けまし
た

講演会のご案内

第16回 豊かないのち講演会

「ここまできちゅう！高知の緩和ケア」

日 時：5月15日（日）開 場：13時00分

場 所：総合あんしんセンター3階 大会議室

入場料：1,000円（当日券あり）**当院にもチケットあります!!**



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>